

シリーズ「放課後子ども教室推進事業」

(初中教育ニュース (初等中等教育局メールマガジン掲載))

【第4回】

放課後の児童の居場所づくり『ほうかごところ』

埼玉県所沢市立所沢小学校長 菅野 俊臣

所沢市は、東京に隣接する埼玉県南西部に位置する人口約34万の中核都市である。本校は、市街の中心地域を学区とし、近年高層住宅が林立し児童数約1050名と世帯数約880の大規模校である。市では、独自に平成15年より「放課後支援事業」として、『ほうかごところ』を実施し、その最初のモデルが所沢小学校『ほうかごところ』である。その目的は、児童が小学校施設を活用し、安全で安心して遊び、学習や仲間づくり等の豊かな体験を図ることであり、その運営は、全て地域に任せ、地域の子どもは地域で育てるという「地域立」によって実施されている。

活動場所は、体育館や運動場、低学年図書室であり、毎日100名以上の児童が元気よく活動している。活動時間は、平日授業終了時から17時、夏は18時、延長は19時まで。土曜日は8時半から12時まで、長期休業中は13時から18時までである。登録児童は全体で70%、1~3年生は約90%。スタッフは1日当たり5名で活動を支援している。夏休み中は市内の大学生、最近では「ほうかごところ」で遊んだ中学生もボランティアとして参加している。

児童は遊びながら確実に育っている。異年齢集団をつくることも、遊びをつくり出すことも積極的となり、危惧された怪我也少なくなった。更に、宿題を終わらせてから遊び、時間を守る等の自律心も養われてきた。今後も、家庭・地域・学校が一体となり、この事業が充実されるよう支援していく所存である。

(初中教育ニュース (初等中等教育局メールマガジン) 第94号に掲載)